

# ハンケイ

5 m

手をのばせばすぐふれられる。

そんな世界を知るマガジン

12

FEATURE

難病カフェBamboo

ヴィサーージュロカ

坂本龍吾さん

菅正彰さん

菅真理さん





FEATURE 2

アレルギー対応ヘアカラー  
や医療用ウィッグを扱う  
ヘアサロン  
ヴィサージュ ロカ

菅正彰さん  
真理さん

JR二条駅近くにある美容室「hair salon ヴィサージュ ロカ」。一見すると普通の美容室だが、「アレルギーに対応したヘアカラーができる店」として、知る人ぞ知る存在だ。また、抗がん剤治療などに伴う脱毛をカバーする医療用ウィッグの種類も豊富に揃える。京都府内には約6千店の美容室があるが、こういった方向性を打ち出す店はめずらしい。

経営する美容師の菅正彰さん・真理さん夫妻は、「お客様の髪に関するいろいろな悩みを支えたい」という強い思いをもっている。開業から18年を迎え、「よりお客様がくつろげるように」と、2023年にサロンをリニューアル。アレルギーや脱毛に悩むような状況でも、自分らしく輝ける人生を過ごせるためのヘアケアを追求する菅正彰さんの思いを聞いた。

— どういった経緯で「ヴィサージュ ロカ」を始めたのでしょうか？

私の実家は、祖父の代から滋賀県

大津市で美容室を営み、祖母がしていたのは化粧品の販売。両親もともに美容師です。私が美容師になるのは自然な流れでした。

19歳で美容師の資格を取得し、千葉県の美容室に就職しました。最初は1店舗しかなかったのに、どんどん拡大して20店舗、従業員は300人もいる規模にまで成長した、勢いのある職場でした。ただ、一日十何人ものお客様を忙しなく担当するなかで、「一人一人のお客様とじっくり向き合いたい」という思いが湧いてきました。そこで32歳のときに関西に戻り、独立。2006年に「ヴィサージュ ロカ」をオープンすることに決めました。

— 「ヴィサージュ ロカ」ではアレルギー対応のヘアカラーが人気ですね。一般的なヘアカラーと、アレルギー対応のヘアカラーは何が違うのですか？

白髪染めを始め、ヘアカラーをされている方は多いです。カラーリングに使われるアルカリカラー剤には「ジアミン」という酸化染料が使用されていることが多いのですが、このジアミンでアレルギー症状が出てしまい、「カラーリングができ

出典：LINEASTORIA



菅真理さん



ない」と悩んでいる人が一定の割合でいらっしやいます。かつての職場で、お客様から「カラーリングにアレルギーがあるんです」という話を何度も聞いていましたが、うまく解決できずにもどかしく思っていました。

ジアミンでアレルギー症状が出ると、頭皮や生え際が赤く腫れたり、症状が重い場合は顔全体に広がったりすることがあります。そこで、「ヴィサージュロカ」では、ジアミンが含まれていないカラーリング剤を多数取り揃えることにしました。

アレルギー対応は美容室にとって簡単ではありません。まずジアミンを含まないカラーリング剤を購入する費用がかかる。さらに、容器の洗浄を徹底せねばならない、またカットやハケ、耳キャップ、マドラー、クロスといった専用の道具を使うなど、アレルギー対応は神経をはらう作業が膨大に増えます。こういった作業に対し、きちんと細部まで対応するのが、従業員がたくさんいる大きなチェーン店になると難しいのです。

私たちがアレルギー対応に踏み出すことができたのは、2つの理由があります。

という夫婦で営む規模の商いであること。私たちが隅々まで緊張感を行き届かせて、アレルギー対策をできる環境が大切です。

もうひとつの理由は、独立してから興味をもった栄養学で、食物アレルギーについて学んだことです。私にアレルギーについて多少なりとも知識があったおかげで、対策に積極的に取り組むことができました。

来店されるお客様は、単に「髪をきれいにしたい」だけでなく、「安全に、自分らしい髪色を楽しみたい」という切実な思いを抱えておられます。「やっと出会えた」と言っていただと、うれしくなります。

——菅さんは、美容室の立場から、医療のサポートもしておられますね。

はい。アレルギーの方に寄り添った美容室を目指す姿勢が伝わって、大阪にある医療用ウィッグのメーカーから相談を受けました。2019年から京都で唯一そのメーカーの「認定サロン」として、抗がん剤治療や脱毛症、コロナ後遺症による脱毛などに悩んでいらっしやるお客様から相談を受けています。

具体的には、医療用ウィッグの取り扱いに力を入れています。現在、



出典：LINEASTORIA



店内奥のポスビタルアート



ホームページはこちら

hair salon ヴィサージュ ロカ

京都市中京区西ノ京職司町26-9

京都大学附属病院をはじめ約50の医療機関と連携し、1ヶ月で約40人のお客様が医療用ウィッグの相談で来店されます。こちらは、美容師でピンクリボンアドバイザーの認定も取得している妻の真実がほとんど担当しています。

抗がん剤治療に合わせて医療用ウィッグをお求めになるお客様に、心地よい雰囲気の中で、ゆっくりとお話ししながら選んでいただきたい。そう考えて、店の奥に専用スペースを作りました。医療用ウィッグは素材や髪型を変えて約40タイプあり、ご自身に合ったものを選んでいただけます。医療用ウィッグと出会って「治療に前向きになれた」とおっしゃるお客様も多いですね。

医療用ウィッグのお客様とは、抗がん剤治療の後も、長いお付き合いが続きます。なぜなら、治療をやめた後、しばらくは肝臓の機能のバランスが乱れるため、最初のうちは、新しく生えてくる髪の毛が強くなる方が多いのです。そんなとき、美容師として私たちはその時期に適切なヘアスタイルをご提案し、「もうちょっと我慢したら、またきれいな髪になりますよ」とお伝えします。そうやって回復されていくお客様の不安が少しでもなくなるように励ますこ

とも、美容師の大切な役割だと考えています。

——「狭く深く」頼りにされるサロン。このコンセプトは今後どのように進められますか？

お客様の中には「他の美容室でカラーリングをしてアレルギー症状が出た。けれど、クレームみたいに聞こえてしまうから、美容師に言い出せなかった」とおっしゃる方も少なくありません。私はいつも「そういう声を、ぜひ美容師に伝えてください」とお願ひしています。なぜなら、お客様にどんなトラブルが起こっているか知らないまま、今の仕事を続ける美容師が多いと、業界のレベルアップにつながらないからです。

一方で、アレルギーや脱毛に悩む方をはじめ、お客様のいろんな悩みをサポートしたいと考える真摯な美容師も、たくさんいます。そんな美容師に正しい知識とスキルを身につけてもらうために、私たちの知見をもっと伝えていきたいです。

髪や体にまつわるお客様の悩みはさまざまです。お客様が自分らしく輝けるように、思いに寄り添っていくサロンが、もっと増えることを願っています。

